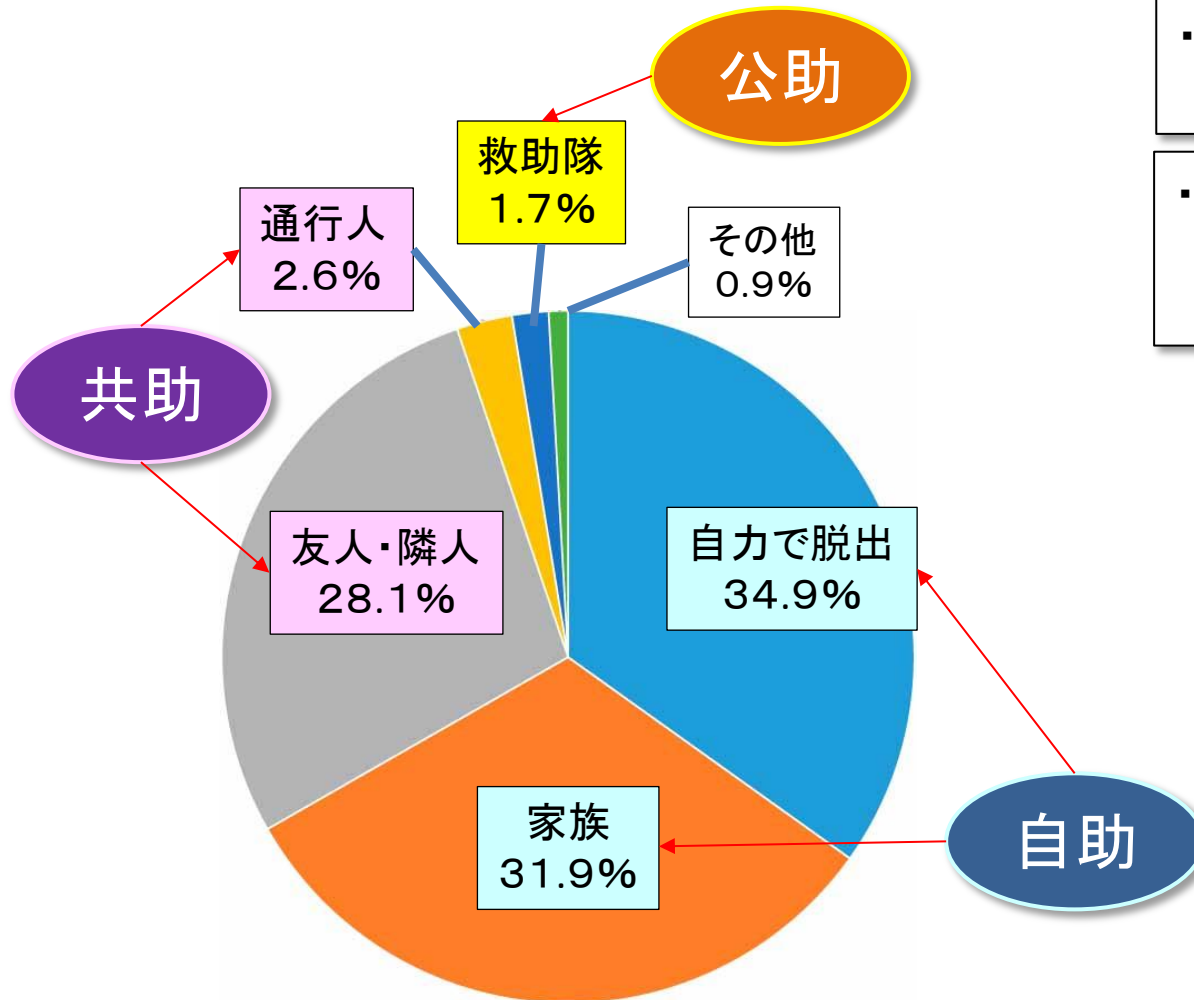


平成30年度 防災講習会

2018年7月8日

本大久保ホームタウン自治会
自主防災会

阪神淡路大震災における生き埋め
や閉じ込められた際の救助主体等



- ・地震発生直後行政がなし得た役割は多くはない
- ・行政の組織が有する人的資源は、あくまでも平時を想定した規模

- ・地域住民による平時からの自助・共助の営みこそが、緊急時の**危機管理**において最大の効果を発揮する

自主防災組織の育成

地域住民による
任意の防災組織

自主防災組織の役割

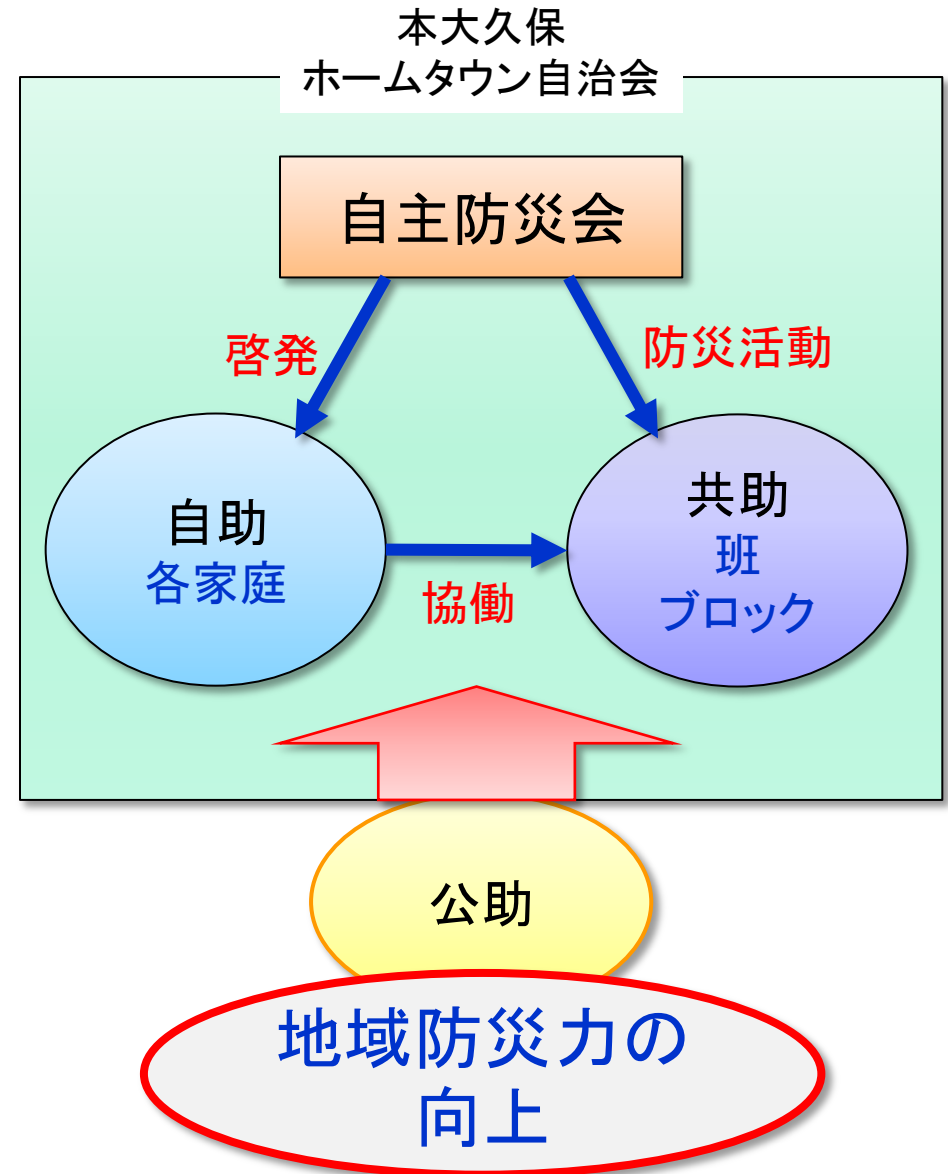
- 地域住民が「自分達の地域は自分達で守る」という意識に基づき自主的に結成し、自発的な防災活動を行っている組織

「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織」 - 災害対策基本法第2条

- 主に町内会・自治会の規模で設置・運営されており、組織の隊員はその地域に住んでいる住民：平成28年4月現在約16万団体、4千5百万人以上

- 大規模災害時に行政機関による救助（公助）が困難な場合、自主防災組織による自助・共助が非常に重要である

（消防庁資料より）



本大久保ホームタウン自主防災会体制

地域住民自身による自助・共助活動の具現化と、より実践的な活動を目指し、2008年(平成20年)自治会役員とは別立ての専任性自主防災会を組織

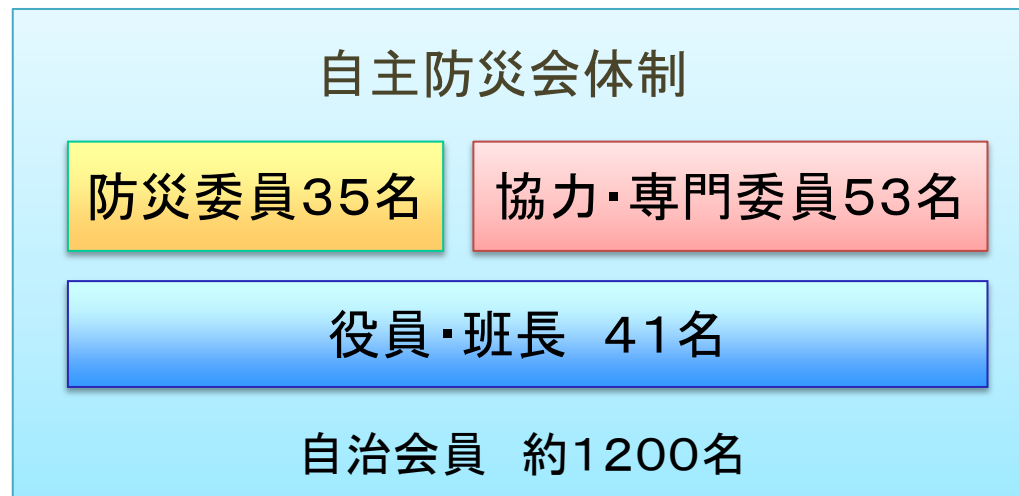
● 体制

- ①防災委員: 日常的に防災活動するコアメンバー
- ②協力委員: 災害時に出勤・支援。女性が60%
- ③専門委員: 専門的知識・経験を活かして災害時に支援

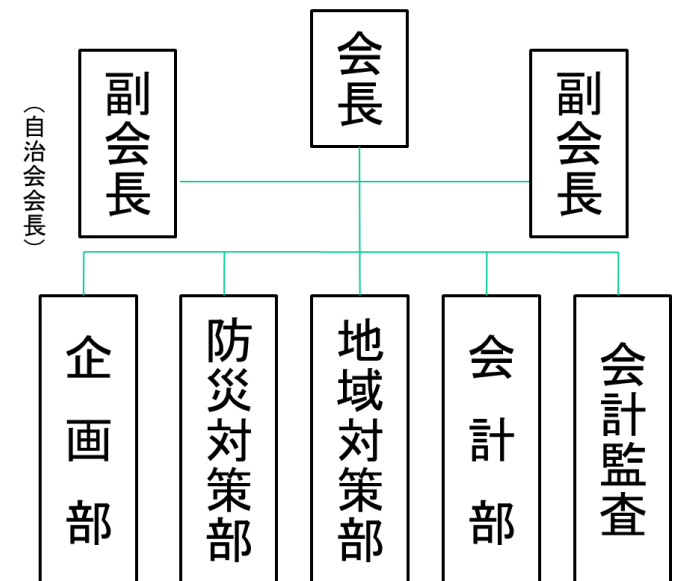
} 毎年公募

● 4つの地域ブロック制

- ・自治会役員、班長を含めた統制が可能



自主防災会は全自治会員により構成



平常時の組織

4つの地域ブロックで情報収集を組織化

5

震度5強の地震または
時間当たり雨量50mm
または自主防災会会長
判断で緊急招集

各ブロック 7班

北ブロック

(1 - 7班)

集中豪雨時避難場所

本大久保会館

北ブロック
担当委員住居

西ブロック

(20 - 26班)

西ブロック
担当委員住居

中央ブロック

(8 - 10, 16 - 19班)

中央ブロック
担当委員住居

南ブロック

(11 - 15, 27 - 28班)

南ブロック
担当委員住居

緊急防災センター

(コミュニティーハウス)

- ・ 全体の指揮、情報収集と発信
- ・ ブロック支援
- ・ 市の地区対策支部窓口
- ・ 避難所設営・運営対応
- ・ 要配慮者対応⇒医療救護所対応

発電機、情報機器、予備照明を設備

屋敷小学校

- ・ 指定避難場所、避難所
- ・ 地区対策支部

全戸に「防災マップ」として
詳細情報付で配布

全住民向け活動計画(平常時)

● 啓発と訓練 (自主防災会活動の柱)

啓発・訓練	主な内容	本年度の目標
防災講習会 年1回	<ul style="list-style-type: none">・各家庭での備えの徹底(自助)・所属班とブロック体制の徹底(共助)・災害別防災対策と対応基本動作 2018年7月8日	<ul style="list-style-type: none">・自主防災会体制の周知・危機管理を学ぶ
防災IT講習会 年1回	<ul style="list-style-type: none">・災害に強いITの活用啓発・「防災ネット」の解説と普及 2019年1月27日(予定)	<ul style="list-style-type: none">・導入予定の新システムとその普及に向けて
防災訓練 年1回	<ul style="list-style-type: none">・自助、安否確認、被災状況調査、避難所、個別課目等の訓練 2018年9月2日(市総合防災訓練)	<ul style="list-style-type: none">・市の総合防災訓練に併せて独自プログラムを実施
自主防災便り 年1回発行	<ul style="list-style-type: none">・家庭での備え(毎年基本を反復)・本年度の目標に関する特集	<ul style="list-style-type: none">・自助が基本を徹底・災害別対策と対応基本動作を周知

緊急時の対応(地震発生～数分(自助))

自主防災会活動

各自の行動

地震
発生

最初の大きな揺れは約1～3分間

- まず、身を守る
(シェイクアウト)

1～3
分

- 揺れが止まったら
- 火元の確認 → 初期消火
 - 家族の安全を確保
 - 非常脱出口の確保
(あわてて外へは出ない)

防災委員

揺れがおさまった

余震に注意！

- 緊急招集メール発信
自主防災会緊急招集
防災センター立上げ

3～5
分

- 隣近所に声をかける
- 近所に火は出していないか確認
- 大声で知らせ救出・救護を！



DROP!



COVER!



HOLD ON!



緊急時の対応(地震発生数分～3日間(共助))

自主防災会活動

防災ブロック(北・西・中央・南)

- 情報収集活動(安否確認・被害状況)
- 初期消火・救出活動
- 応急救護・搬送

協力委員

専門委員

役員・班長

防災センター(コミュニティーハウス):市地区対策支部と連携

- 全体情報収集⇒提供・連絡
- 防災・減災活動全体指揮
- 救護所・避難所設営運営協力

各自の行動

10分～
数時間

- 安否確認プレート掲示
- 自主防災活動に協力
- 火が天井に達したら屋外へ
- みんなで消火・救出活動

数時間
～3日

- 自治会「防災ネット」の活用
- 安否確認情報の入力・確認

- 水・食料は蓄えているものでまかなう

避難
生活

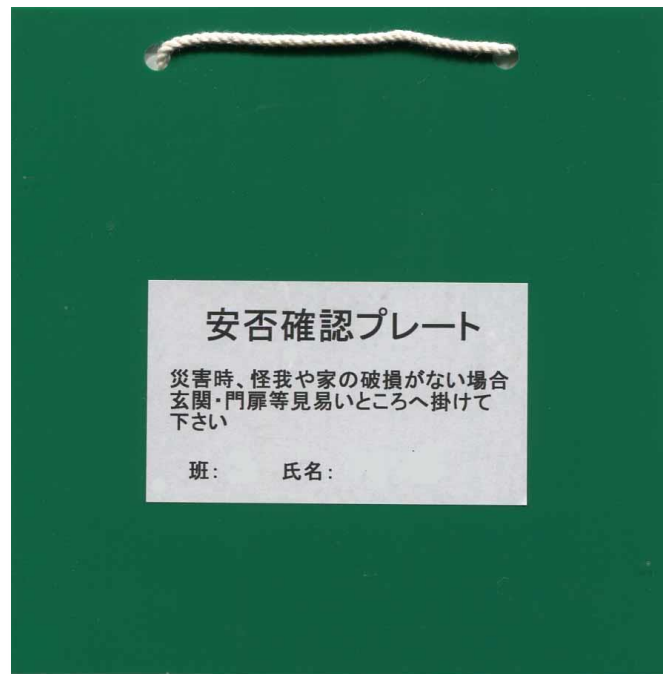
- 避難時はガスの元栓を閉める。電気のプラグを抜く。電気のブレーカーを落とす。

● 全戸配布済

- 玄関内側など、いつでも掲示できる場所に置いておく

● 大きな災害時は、迷わず掲示

- 震度5強以上の地震時は、安全を確認できた住戸は門扉などに掲示
- ブロック担当の指示で班長等が全戸を確認し、トランシバーを使って短時間で防災センターに掲示情報を集約



9月2日(日) 10時～13時

習志野市民全員参加の訓練です

10時00分～ ● 各家庭で自助訓練（シェイクアウト、火元確認、家族の安全確認等）

● 安否確認・被災状況調査訓練

- ・緑色の安否確認プレートを玄関又は門扉にかけます
- ・防災委員と役員・班長で安否確認実施
- ・防災委員と協力委員で被害状況調査

10時30分～ ● 屋敷小学校体育館で避難所訓練

- ・避難所開設と運営訓練

11時00分～ ● 屋敷小学校で個別課目訓練（予定）

予定訓練名称	指 導	予定場所
1. 応急給水訓練	企業局・自衛隊	グラウンド
2. 感震ブレーカーの紹介	東京電力	体育館内
3. 救援物資受入訓練	市職員	体育館内
4. ロープ結束訓練	自衛隊	グラウンド

*8月中旬に詳細
プログラムを
案内します。